



カムカム

訪問歯科診療ニュース

「カムカム通信」は訪問歯科診療の普及をめざし、SOSデンティストより発行しています。

噛む噛む通信

2009.07
Vol. 64

SOS DENTIST

発行 / SOSデンティスト
日本訪問歯科協会
〒103-0012
東京都中央区日本橋堀留町1-2-16
瀧田ビル3F
TEL : 03(5623)3651
FAX : 03(5623)1119

通院困難な方の歯科に関するお問い合わせはこちらまで... ☎ 0120-099-505

COME COME倶楽部

「デイサービスセンターひまわり苑」(青森県八戸市)では、90歳、100歳を超える利用者様もいて、みなさん元気いっぱい。「お口の健康相談」や訪問歯科診療を受けてお口の健康状態を整え、ますますお元気です!

お口の健康相談でさらにいきいき!



社会福祉法人徳政会
デイサービスセンターひまわり苑
管理者 川村 朝子さん
生活相談員 高屋敷明子さん

私たち、「デイサービスセンターひまわり苑」では、去年初めて「お口の健康相談」を実施しました。

なにしろ初めてですから、利用者様がどう受け止めるか、ご家族の方にどのように説明したらよいか、など、いろいろ不安はありましたが、やってみて本当によかったです。

来ていただいた先生も、見た目はちょっと怖そうな感じなんです(笑)、とてもやさしい方でし

た。人柄もよかったですので、利用者様もなんでも相談できてよかったです。と言っていました。

利用者様の中に、今年の8月で101歳になる方がいらっしゃいます。きれいな歯が今でも25、26本も残っていて、お口の状態がとてもすばらしいのです。「お口の健康相談」のとき、先生から、「歯のコンテストに出場してみたらいかがですか?」と勧められて、とても喜んでいました。実際にエントリももされて、張り切っておられました。

訪問歯科診療はサービスも費用も満足

「お口の健康相談」の後、「電話で先生を呼んだよ」とおっしゃっていた方がいて、何名か訪問歯科診療を依頼しました。

ここに週2、3回いらして、「入れ歯が合わないんだ」ともいらしていた方は、入れ歯を調整してもらってからは、とても調子がよさそうです。

また、96歳の方は抜歯をされました。抜歯をしたことでお口の中の違和感が解消されて満足してい

らっしゃるようです。

うちに通ってこられる方は、比較的元気な方が多いのですが、片麻痺などがあって歯医者さんには行けないという方もいらっしゃるので、訪問歯科診療をニーズは高いです。

皆さん、自宅で治療となると往診料が高いのではないかと考えていたようですが、費用も安かったと喜んでいらっしゃいました。

継続的な「お口の健康相談」で口腔ケアをステップアップ

「お口の健康相談」をやったから、利用者様にも変化が見られました。ある認知症の方は、食後に自分からうがいをするようになりました。

これまで、当施設ではお口のケアは特に取り入れていなくて、本当は歯磨きなどのケアもできるとよいのですが、なかなか手が回らないのが現状です。けれども、日本訪問歯科協会から、パンフレットや資料などもいろいろといただいているので、少しずつ取り入れていきたいと思っています。

「お口の健康相談」はぜひ今後も定期的に続けていきたいです。初回は、スタッフに大々的に声をかけなかったのですが、次回は介護職のスタッフにもぜひ参加してもらおうと思っています。

前回の「お口の健康相談」によって、利用者様の意識も変わり、食後にうがいをするところまで定着しつつあるので、次回はさらにもうワンステップ、歯磨きをするところまで進めたいと思います。

今日から始める、簡単お口のケア! アドバイス

高齢者の歯ぎしり

寝ている人から「ギリギリ、ゴリゴリ」と音が聞こえる歯ぎしりは、本人は無意識に行っているため、人から指摘されて初めて気づくことも少なくありません。

歯ぎしりには、上下の歯を横にギリギリ擦り合わせるもの、ものを噛むように上下でカチカチさせるもの、強くくいしばり音が出ないもの、などがあります。

歯ぎしりの原因として、かみ合わせの不均衡、精神的・身体的な疲労やストレスなどがあげられますが、健康な人でも起こす生理現象でもあります。

高齢者の場合は、睡眠障害や認知症などが原因になっている場合もあります。

歯ぎしりは音が周囲の迷惑になるだけでなく、顎の周りの筋肉に力がかかっているため、歯を傷めたり、歯を支える歯槽骨が壊れて歯周病の原因になったり、顎関節症になったりします。歯の本数が少ない高齢者では、残った歯に歯ぎしりによる悪影響が現れます。

認知症が進行した高齢者では、唇や舌、頬粘膜を噛んでしまうこともあるので、歯ぎしり防止のマウスピースなどを早めに装着したほうがよいでしょう。

高齢者の歯ぎしりは、精神・神経学的な病気が関係していることも多いので、歯科だけでなく専門医の協力も必要です。